

大阪新聞錦圖 三号



赤見

東京高井戸村辺に明治八年四月二十日ある家の七歳ある女の子が去年生まるとの
赤見を守護して夕方ひとり帰り母の赤見を尋ねふかまふらんもり人なり泣けり川へ
そめりしと通り泣きけりあか川へそめて戻つと聞き母を泣き狂いしを川に
居見ると最早流れて知れぬ肉へかゝり母を捕へんとせんぞ取らんとす
悪の娘は此子も死んで大悪とあつしを母の思ふやう丈夫の苗主中認るゝと又此母
身を投げて因果の巡る一日ふ三人連れの出の旅三途の川の浅き事ある事とあるも
高井戸のちとれとつと後善の蒲団とこゝろて取らや
母のあつたての耳をこゝろ
よくあつと
讀み

今八号
敷き

文花堂誌

本安
平吉

